

笑顔の 真剣勝負



第14号

目指せ！真の日本一 新生 飯高チア部



新入部員も加わり新たなスタートを切ったチアダンス部

初出場した「JCOA全日本チアダンス選手権決勝大会」で全国の強豪校を抑え優勝し、日の丸を背負って挑んだ「NDA全米チアダンス選手権」では準優勝に輝くという大躍進を見せた飯高高校チアダンス部。夢の大舞台での経験が自信となり、演技の力強さへとつながったと同時に「もっと上を目指していきたい」という強い気持ちが芽生えた。米国大会を経験した2、3年生に加え、今春には新たな戦力となる新入部員が加入し新体制となった同部は、名実共に「日本一のチーム」を目指し、新たなスタートを切った。



米国でもひびくことなく堂々と演技を披露

チアダンスとは米国のチアリーディングから派生したスポーツで、ダンスの技術やチームワーク、競技者の笑顔などが採点となる。昨秋、関東予選を1位で通過し初出場した全国大会で優勝。日本チアダンス協会からの推薦を受け出場した全米選手権では、シニアラージジャズ部門(18歳以下、15人以上の編成)に出場した。チアダンスの本場と言われている現地のクラブチームらとパフォーマンスを競い、3位以下に大差をつけて準優勝を飾った。チームのキーマンとなったのはバトン、新体操を10年経験している3年生の犬窪菜緒さん。培ってきた技術を生かしたアクロバットの演技を得意としており、全米選手権でもソロバトンを担当するなど高い演技力を持つ。

今年度の課題は技術の安定性を高め、難易度を上げていくこと。他チームに負けない圧倒的なオーラを持つチームを目指し、出場する大会全てで優勝を狙う。田中紗紗部長は「経験者も初心者も皆で支え合って各大会のトロフィーを持って帰り、そして再びアメリカの舞台で演技したい。そのためにも、まず私たちの踊り周りを笑顔にしていくことから」と力強く語っている。

感受性の豊かさを武器にひたむきに練習を重ね、表現力を磨いていった。忘れてはならないのがコーチの存在。メインコーチとして部員たちを率いるのは、数多くのトップチームを指導している北久保みゆきコーチ。一人ひとりの魅力を引き出しながらチームの育成に励んでいる。

米国経験 大きな自信に

志しを共にする部員たち
(カッコ内は出身中学)

- 顧問 上田勝彦、中島伸広(コーチ、アシスタント)
- 北久保みゆき、島田愛(3年生)大窪菜緒(大岡)、竹真優(飯能第二)、浅井梨乃(飯能西)、田中紗紗(富岡)、森友莉香(飯能第一)、井上じゅりあ(飯能第一)、守谷瑠那(飯能西)(2年生)設楽珠生(横瀬)、加藤朱里(横瀬)、木村真帆(狭山ヶ丘)、青田優菜(飯能第一)(1年生)伊関玲(山口)、瀬野瞳(向原)、川井優有(狭山市西)、丹野友莉(東町)、坪山愛(狭山ヶ丘)、新井美紀(飯能第一)、今井春花(影森)、田崎朱花(入間野田)、今村真帆(東町)、鈴木亜依(影森)、渡邊実夢(上藤沢)、浅井彩乃(飯能西)、末次千裕(豊岡)、土方珠里(三ヶ島)、本吉愛音(東町)、南方風香(山口)、森住安南(飯能第一)、木村有那(東町)、熊谷珠空(狭山ヶ丘)、知念美花(南陵)



部をまとめる田中紗紗部長(中央)と浅井梨乃副部長(左)。演技の要を担う大窪菜緒さん

「可能性は未知数」 魅力引き出す指導者たち



北久保みゆきコーチ 上田勝彦顧問

北久保みゆきコーチは入間向陽高校に入学した際、3年生の時に国内最大規模の大会「USA ナショナルズ」で部門優勝、総合のグランプリを受賞したほか、世界大会への出場経験も持つ。また、19歳から指導者として活躍、現在は高校・大学・クラブチームなどで振り付けや指導を行っている。「夢は叶う」ということを伝えたいと、部員たちの指導に励むが、「昨年度は、夢は叶う」ということを逆に教えてもらった1年だった。全く成績が出ない時期が続いたからこそ、全日本で優勝した時や、米国の舞台を経験している時の部員たちがまぶしかった。まるでシンデレラストーリーのように。チーム運営を担うのは上田勝彦顧問。北久保コーチとは高校時代からの師弟関係で気心の知れた間柄。コーチについては「まさに鬼才と絶大の信頼を置く。上田顧問は今年も出場する大会の数を絞った。出るところは全て優勝を狙っていく」と意気込み、「応援して下さる地域の方々へ感謝の気持ちとして、我がまの元気の起爆剤となっていく」と話す。